



医療費と健康と税

和歌山県立古佐田丘中学校 三年 岡 響

僕たちは、病気やけがをしたときに病院へ行き、診察や治療を受ける。そのとき、窓口で支払うのは本来の医療費の金額ではない。医療事務を十年以上続けている母から色々教えてもらったが、日本では健康保険制度があり、医療費の多くは税金や保険料によってまかなわれている。僕はこの仕組みを知り、税金が僕たちの健康を守っていることに気付いた。

例えば、風邪で病院へ行った場合、実際にかかる費用が八千円だとする。でも本人が払うのはその三割の約二千五百円で、残りの五千五百円は健康保険組合や国や地方自治体が負担していることを知った。このとき、国や自治体が負担する部分には、国民が納めた税金が使われている。また、各市区町村では、僕たち子供のために「子供医療証」を作りまだ負担を軽くしてくれているのだ。つまり、自分たちが病院で安く治療を受けられるのは、多くの国民が税金を納め、支え合っているからだ。

また、大きな病気やけがをしたときも税金の力は大きく影響する。高額療養費制度では、一カ月の医療費が一定額を超えると、それ以上の部分は支払わなくていいこともあったりあとから返金になったりする。もし税金による支えがなければ、治療費が高額すぎて、十分な治療を受けられない人が増えるだろう。

僕の祖父が心臓のカテーテル手術を受けたことがある。手術や入院には多額の費用がかかったが、健康保険制度と高額療養費制度により、実際に支払った金額はずつと少なく済んだそうだ。祖父は「もしこの制度がなかったら、治療を受けられなかったかもしれない」と話していた。この話を聞いて、税金が家族の命や健康を守る大切な役割を果たすと気付かされた。

しかし医療費に使われる税金は年々増加しているそうだ。高齢化が進む中で医療を必要とする人が増え、医療技術の進歩によってできる治療が増えた。国の負担は重くなり、将来の若い世代への影響が心配されている。限られた税金を有効に使うためにも、僕たち一人ひとりが健康に気をつけ、病気を予防する努力が大切だと思う。

具体的には、日常生活でバランスのとれた食事や適度な運動を心がけると、十分な睡眠を取ることや、健康診断を受けることが必要だと思う。小さな積み重ねが病気の予防につながり、医療費の増加を抑えることができる。

税金は道路や学校の整備、災害復旧などさまざまな分野で使われているが、その中でも医療は命に直結する重要な分野だ。税金によって支えられる医療制度は、僕たちが安心してくらせる社会の土台だと思う。僕は将来社会人になり納税者となる。健康に暮らし医療費の負担を減らすことで税金を有効に活用できる社会づくりに貢献したいと思う。